



NPO 法人フードバンクいるま

2025年度 定期総会(書面)のご案内

日頃からフードバンク活動への参加、ご協力いただきありがとうございます。

当団体の2025年度定期総会は諸般の状況を考慮し、5月25日(日)に書面による総会とさせていただきます。なお各議案については5月10日の理事会で審議済であることを申し添えます。

ご挨拶

会員の皆様におかれましては、ご健勝のこととご推察いたします。

今年は例年に増して日中と朝晩で寒暖差や周期的な温度差もことさら激しい状況が続いています。お体の変調をきたさないよう十分注意されてそれぞれご活躍くださいますよう心から願っています。

フードバンクいるま(以下当会という)は2018年に設立。2021年10月NPO法人として再スタートを切って3年が経ちました。

この間、当会の目指す「あつめる」「とどける」「つながる」の3本柱はそれぞれ大きく成長してまいりました。

セブンイレブン16店舗をはじめフードドライブ拠点が前年から7ヶ所増え計61拠点となりました。また、団体・企業・個人の方から33.8トン(前年比2.2トン増)の食糧を集めることができました。(集める活動)

市を通して生活困窮世帯への配布を始め、フードパントリーでは前年度試行事業として行った地区パントリーを定例化し、年5回の実施ができました。また「命の食料箱」の設置もしました。配布食料の取扱量は年間34トン弱。前年比で2トンを超えました。(とどける活動)

これらの活動を支えるボランティアの輪も広がっています。

食料の集荷・配布以外にもたくさんの支援者のご協力で「ブルーベリー狩り」や「ジャガイモ堀」「似顔絵体験」や様々なイベントへの参加を通して地域の連帯の輪を広げてきました。

また、ホームページや毎月の「フードバンクいるま活動報告」発行を通して、広く情報発信をしてきました。

財政面でも多くの方からの寄付金や、運営費の底支えとなる法人会員も増やすことができました。こうした活動ができるのも支えてくださる会員や協力企業・団体・個人の皆様がいるおかげです。

(つながる活動)

しかしながら、まだまだ支援の届かない方がたくさんいる中で、運営基盤の脆弱さもあり、当会の体力(スタッフの確保や財政強化など)を強めていくことが課題です。

みなさまのお力をお借りしながら、運営基盤の構築に努めてまいります。

総会では直接お目にかかってお礼を申し上げるとともに、情報の共有をしたいところではありますが、皆さまのご支援・ご協力をお願い申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。

フードバンクいるま 代表理事 田中満枝

総会次第

1 議事録署名人の選出

5月10日の理事会において、以下の方が議事録署名人として選出されました。

鈴木正敏 氏

加藤 喜代江 氏

2 議事

- (1) 第1号議案 2024年度事業報告
- (2) 第2号議案 2024年度決算報告・監査報告
- (3) 第3号議案 2025年度事業計画(案)
- (4) 第4号議案 2025年度活動予算書(案)
- (5) 第5号議案 役員の承認(案)

3 報告事項

感謝状の贈呈について

2 議事

第1号議案 2024年度事業報告

当団体は2018年に任意団体として発足し2021年10月1日より、NPO法人として再スタートしました。フードバンクいるまではこれまで「様々な事情で食べ物が必要になった人や施設・団体等に無償で提供してきました。そのために「あつめる」「とどける」「つながる」活動を展開してきました。

入間市は2022年にSDGs未来都市に選定されました。フードバンクいるまは2023年度に「入間市SDGsパートナー」に認定されました。市役所やさまざまの事業所、市民団体と連携し、入間市が目指す「Well-beingCityいるま」の実現に向けてフードバンク活動を通して貢献していきます。

2024年度寄贈品 (単位トン)

寄贈先	2024年度	前年比	2023年度
フードドライブ	5.4	0.3	5.1
フードバンク上部団体	12.3	0.2	12.1
企業よりの製品・備品	12.8	1.0	11.8
政府米	1.5	1.0	0.5
購入	1.8	-0.4	2.2
合計(単位 トン)	33.8	2.2	31.6

I フードバンク・パントリー活動の強化

1 市の総合相談支援室との連携強化

総合支援室より送付される依頼書に対応し、'24年度は、107世帯、延べ662回分、1500人(世帯人数×配布回数合計)に食材を提供することができました。また、総合相談支援室に、突然、訪問される人の対策として、緊急用の食材を提供し、総合相談支援室の活動を下支えました。

2024年度より市の支援調整会議に参加した。フードバンクいるまの食品支援原則を説明しひとひとつの事例についてコミュニケーションをとり取り組んだ。

2 社会福祉協議会との連携強化(2024年3月よりフードドライブ拠点として活動)

社会福祉協議会の「困りごと相談室」とのより一層の連携強化として、今、食べるのに困っ

ている方を対象に12月より「いのちの食料箱」を開始した。

3 地区センターにフードバンクの利用を働きかける

行政と協議をかさね実現が可能な方法を見いだしているが、地区センターの支所との連携はできていない。現時点では総合相談支援室との連携に重点を置き後の展開として進めている。

4 地域包括支援センターとの連携で高齢困窮者への支援

地区パントリーの参加券を地域包括支援センターより必要な高齢者に配布していただき交通手段のない方には自宅まで配送した。延べ35世帯の参加があり、31世帯を配達した。

5 ミルク基金を確保し、粉ミルクを提供する（2023年度下半期よりの利用者増加に対応）

24年度ミルク基金 収入¥551,597 支出¥254,387（126個購入） ¥297,210を基金とし積み上げた。

6 フードパントリー茶いんど1回の開催で180世帯利用（児童扶養手当受給者対象）

年5回実施（入間メモリードホール以外の場所でも実施）6月、8月、10月、12月、2月
延べ891世帯参加

7 地区パントリーの実施（年5回、日曜日開催も実施）

年齢にかかわらずの支援（子育て世代～高齢者）

5月19日（日）、7月20日（土）9月21日（土）11月16日（土）3月15日（土）

延べ参加人数 子育て世帯 491世帯 高齢者 35世帯

II フードバンク活動を通して人と人の絆をつくる地域支援ネットワークの構築

1 市内及び近隣の子ども食堂、福祉施設等のネットワーク構築

全国フードバンク推進協議会、日本ショーファ協会などの団体、個人から、大量に頂いた。食品をこども食堂、福祉団体に提供する活動を通して、食品支援ネットワークの構築を進めてきた。

24年度は、ネットワーク団体は33団体から45団体になった。出荷量は11.2トンになった。

2 地元の市民、企業、団体等に積極的に働きかけ食料品確保体制の強化をはかる

フードドライブ拠点の強化（地域からの食料品提供量増加。）

24年11月5日にセブンイレブンジャパンと「フードドライブ実施に関する協定書」を締結した。そして入間市内にあるセブンイレブン18店舗中、16店舗フードドライブ拠点になっていただいた。その他埼玉りそな銀行入間支店様をはじめ7か所拠点が増え計61拠点になった。

フードバンクいるまは収集体制を強化して、対応した。結果として、フードドライブの食品収集量を昨年度より0.3トン増やすことができた。

3 （夏休み）ひとり親世帯に向けてのイベント実施（ブルーベリー狩り等）

6月22日 ジャガイモ狩り、7月27日ブルーベリー狩り、10月12日 似顔絵体験を実施した。いずれも大盛況で子ども達への思い出のプレゼントになった。

4 チャリティーセンターと連携して子ども達に本のプレゼントを実施する

「チャリティーサンタ」さまから寄贈される絵本等を12月のパントリーで配布した。

利用者から、「本までいただける。本が高いので子どもに買ってあげられないのでとても有り難い」との声もあり、好評だった。

5 高校との連携

文化祭等でのフードドライブの実施、ステッカー作成時にデザイン等の協力を依頼する高

校生と一緒に考えるスタンスで取り組む。

残念ながら、実施に至らなかった。フードバンクの体力を考慮した計画を考えていきたい。

6 フードバンクいるまに協力して下さっている企業団体のイベント等への協力

8月24日入間市福祉会の祭り 9月7日に「いわさきいつも祭」

10月26日に「ぶどうの会25周年イベント」、11月30日 第3回イルミンまつり

12月1日第29回いるま生涯学習フェスバル 3月17日令和6年度健康福祉センターまつりに参加させていただき、交流を進めた。

7 地元の中学校との連携を深め、中学生にボランティア活動を通してフードパントリー活動

フードバンク活動の重要性を知ってもらう

フードバンク活動の重要性を知ってもらうため、パントリー時に毎回講話の時間を作って、生徒の理解を深めると同時に、中学校との連携を深めることができた。

→6月、8月、10月、12月、2月、3月のパントリーで延べ169人が参加した。

8 入間市社会福祉協議会が実施する“夏ボラ体験”事業の受け入れ

24年度も‘夏ボラ体験’として8名に倉庫の実務に参加があった。

参加者からは、「貴重な体験ができた」などの感想があった。

Ⅲ 広報活動の強化

フードバンクの理念を多くの市民に知ってもらうために情報公開をつとめる。

1 SDGs 寄与するフードバンク活動を地元企業・団体にPRし、フードバンクいるまへの協力を働きかけていく。

4月11日入間市SDGsパートナー証贈呈式に出席し参加企業・団体にPRを行った
渉外担当が関係団体等からの紹介をうけて、その都度企業、団体、個人宅に伺いし
フードバンクいるまのPR・協力依頼を行った。

2 ホームページによるフードバンクいるま活動の情報公開

4月よりHPをリニューアルした。39件のイベントや報告をHPにて公開した

3 月報「フードバンクいるま活動報告」による情報発信

月報に「ハートフルいるま」の欄を設けるなど、紙面のリニューアルを実施した。特に、コラム記事作成にあたってが、フードバンクへの協力者に実際にインタビューするなど、協力者の方の思いを伝えることができたと考える。12回発行して各拠点に配布やHPでも発信した。

4 イベントに参加（環境フェア、生涯学習フェスティバル、万燈まつり等）

環境フェア、生涯学習フェスティバル、イルミン祭り、健康福祉センター祭り
などに出店し、フードバンクの活動内容のPR、フードドライブを実施した。特に、
こども主体のイベントでは、「生活クラブ生活協同組合入間支部」のご協力を得て、多くの
人の関心を集めることができた。

5 入間ケーブルテレビ、FMチャッピー等の地元のマスコミでの広報活動

イオンスタイル入間店内にあるFMチャピースタジオでのインタビューを受けた事や
パントリーやひとり親世帯に向けてのイベント等の時に入間ケーブルテレビ取材を受け
フードバンク活動を市民に広報することができた。

6 地域のネットワーク会議や交流会等に参加し、活動の周知をはかる

扇町屋ささえあい・いきいき・ネット会議（年6回）イルミン活動登録団体交流会（年2回）扇町屋公民館（扇町屋地区センター）運営委員会等（年3回）に参加してフードバンクいるま活動の活動説明をして周知をはかった。

IV 運営基盤の強化

1 活動資金を助成金中心から地域からの募金、法人会員費、正会員費などを中心に変わっていく 会員の拡大・・・特に法人会員の開拓（法人会員40社目標）

財政基盤の強化・・・寄付金・募金の確保（目標金額1,400,000円）

助成金・・・¥1,120,000円（前年比60.1%）

法人会員数32団体、寄付金額¥1,694,529、助成金¥1,582,409の実績だった。

法人会員数は、目標達成はできなかった。ただし、寄付金額を含めると目標金額（目標¥1,824,000、実績¥2,078,520）を上回っており、運営基盤の基礎は確立できたものと考え

る。
助成金に関しては、今年度は‘23年度の助成金の残分（¥492,409）があり、目標を大きく上回る結果だった。ただ、フードバンクいるまに適した助成金候補が減っていることを考慮すると、助成金の比率を減らした運営が必要と考える。

2 ボランティアスタッフの組織化と役割の明確化

2023年度に新しくボランティアとして入会した方も含め、役割業務の明確化、役割業務を複数人担当にしていく。

24年度、新規に13名の方に、ボランティア活動に参加があった。参加された方の得意分野（運搬、パソコンなど）を伺いながら、役割分担を進めている。すでに、倉庫だけでなく、フードドライブ、パントリーでも活躍頂いている。

第2号議案 2024年度決算報告 監査報告

(2024年4月1日～2025年3月31日)

2024年度 活動計算書(2024年4月1日～2025年3月31日まで)

特定非営利活動法人フードバンクいるま

				(単位:円)	
科 目	予 算		実 績		備考
I 経常収益					
1 受取会費					
正会員	120,000		113,000	56名	
賛助会員	19,000		11,000	9名	
法人会員	285,000		260,000	32団体	
		424,000		384,000	
2 受取寄付金					
寄付金	1,400,000		1,694,520		
		1,400,000		1,694,520	
3 受取助成金					
赤い羽根(第12回:前年度分)	310,000		280,000		
ユープ未来×中央共同募金会(差額)	180,000		212,409		
赤い羽根(第13回)	500,000		460,000		
入間市社会福祉協議会	50,000		50,000		
浦和競馬	80,000		80,000		
パブリックリソース財団大阿闍梨			500,000		
		1,120,000		1,582,409	
4 その他収益					
雑収入	4	4	177	177	
経常収益計(A)		2,944,004		3,661,106	
II 経常費用					
1 事業費					
食料購入費(困窮者用)	1,470,000		1,764,700		
生活用品等購入費(困窮者用)	0		0		
水道光熱費	155,000		190,199		
書籍費	0		0		
リース料	150,000		108,648		
保険料	20,000		34,000		
役務費	13,000		6,290		
印刷費	150,000		126,564		
旅費交通費	210,000		172,681		
移転費用積立	100,000		0		
修繕費	33,000		6,771		
雑費	10,000		53,290		
事業費計		2,311,000		2,463,143	
2 管理費					
通信費	200,000		215,054		
消耗品費	200,000		333,933		
諸会費	11,000		11,000		
備品費	0		0		
管理費計		411,000		559,987	
経常費用計(B)		2,722,000		3,023,130	
① 当期正味財産増減額(A-B)		222,004		637,976	
② 前期繰越正味財産額		551,727		551,727	
次期繰越正味財産額(①+②)		773,731		1,189,703	

上記のとおり報告致します。

会計担当 理事

佐藤 和人

2025年4月9日に監査した結果、上記のとおり相違ないことを報告致します。

監事

矢野 彰子

監事

佐々木 あさ子

第3号議案 2025年度事業計画（案）

当団体は2018年に任意団体として発足し2021年10月1日より、NPO法人として再スタートしました。フードバンクいるまではこれまで「様々な事情で食べ物が必要になった人や施設・団体等に無償で提供してきました。そのために「あつめる」「とどける」「つながる」活動を展開してきました。入間市は2022年にSDGs未来都市に選定されました。フードバンクいるまは2023年度に「入間市SDGsパートナー」に認定されました。市役所やさまざまな事業所、市民団体と連携し入間市が目指す「Well-beingCityいるま」の実現に向けてフードバンク活動を通して今後も地域社会に貢献していきます。

I フードバンク・パントリー活動の強化

1 市の総合相談支援室との連携強化

市の総合相談支援室が行う生活困窮者自立相談支援の一環として食品の支援を行なう。

（毎週月曜日、定期的、な支援を実施する。）

また一時的な生活が困難な人を対象に、臨時で配布できる食品を常備することで支援を行う。参加している市の支援調整会議で、フードバンクいるまの食品支援の原則を理解してもらい、それぞれの事例についてコミュニケーションをとり支援に取り組んでいく。

2 社会福祉協議会との連携強化

（1）社会福祉協議会「困りごと相談室」と協力して食に困っている方に緊急で対応出来るよう引き続き「いのちの食料箱」の支援を行う。

（2）社会福祉協議会が2024年3月よりフードライブ拠点として活動開始した。

他市では、社会福祉協議会でもフードバンク活動を実施している市もあるが、入間市についてはフードバンクいるまに一元化してフードバンク活動を実施する。

3 地域包括支援センターとの連携で高齢困窮者への支援を行う

4 ミルク基金を50万円確保する

パントリー利用するミルクが必要な世帯に必要な期間配布する

市の総合相談支援室が行う生活困窮者へのミルク支援は必要な期間支援する。

5 フードパントリー茶いんど（児童扶養手当受給者対象）年5回実施する。

6月、8月、10月、12月、2月の年5回（1回の開催で200世帯利用を計画している）

6 地区パントリーの年5回実施する

5月、7月、9月、11月、3月5回（1回の開催で80世帯から160世帯利用の計画）
支援対象者は（子育て世代～高齢者までの年齢にかかわらずの方が対象）

II フードバンク活動を通して人と人の絆をつくる地域支援ネットワークの構築

1 市内及び近隣の子ども食堂、高齢者の居場所作りをしている団体、福祉施設等のネットワーク構築をはかる。

2 地元の市民、企業、団体等に積極的に働きかけ食料品確保体制の強化をはかる フードドライブ拠点の強化（地域からの食料品提供量増加。）

3 ひとり親世帯の子ども達に向けてのイベントを実施する

（子ども達への思い出になる体験づくり）親子料理教室、ブルーベリー狩り、芋ほり、似顔絵体験等を計画している。

4 チャリティーセンターと連携して子ども達に本のプレゼントを実施する。

（親の方から本が高く購入してあげることが出来ないという切実な声があった）

5 地元の中学校との連携を深める

中学生にボランティア活動を通してフードパントリー活動、フードバンク活動の重要性を知ってもらう

6 フードバンクいるまに協力して下さっている企業団体のイベント等に協力する。

7 入間市社会福祉協議会が実施する“夏ボラ体験”事業の受け入れる。

8 イベント時にフードバンククイズなど子どもの関心を引き、親子でフードバンクの取り組みを理解してもらう。

Ⅲ 広報活動の強化

フードバンクの理念を多くの市民に知ってもらうために情報公開をつとめる。

- 1 SDGs 寄与するフードバンク活動を地元企業・団体に PR し、フードバンクいるまの協力を働きかけていく。
- 2 ホームページによるフードバンクいるま活動の情報公開する。
- 3 月報「フードバンクいるま活動報告」による情報発信する。
- 4 イベントに参加する（環境フェア、生涯学習フェスティバル、健康福祉センターまり等）
- 5 フードドライブ活動時にチラシ、リーフレットを活用してフードバンク活動を PR する。
- 6 入間ケーブルテレビ、FM チャッピー等の地元のマスコミでの広報活動を行なう。
- 7 地域のネットワーク会議や交流会等に参加し、活動の周知をはかる。

Ⅳ 運営基盤の強化

- 1 助成金にできる限り頼らない予算の策定し運営する。
 - (1) 会員費 ¥424,000(前年度予算と同等)、寄付金 ¥1,800,000(前年度予算+¥400,000)、助成金 ¥390,000(前年度予算-¥730,000)の実現。
 - (2) 寄付品を有効活用し、食料品購入費の削減（前年度実績-¥194,000）を図る。
 - (3) 不要不急品の購入を抑え、印刷費/消耗品費で約¥200,000(対前年度実績)の支出の削減を図る。
- 2 新規にボランティアに参加された方の早期戦力化
 - (1) フードバンクいるまの活動の全体像の説明会の実施
 - (2) 本人のご意思を尊重した役割分担を行う。

第4号議案 2025年度活動予算書(案)

(単位:円)

科 目	25年度予算		24年度実績		予算-実績
I 経常収益					
1 受取会費					
正会員	120,000		113,000	56名	7,000
賛助会員	19,000		11,000	9名	8,000
法人会員	285,000		260,000	32団体	25,000
		424,000		384,000	40,000
2 受取寄付金					
寄付金	1,800,000		1,694,520		105,480
		1,800,000		1,694,520	105,480
3 受取助成金					
赤い羽根(第12回:前年度分)			280,000		
ユープ未来×中央共同募金会(差額)			212,409		
赤い羽根(第13回)			460,000		
入間市社会福祉協議会	40,000		50,000		
浦和競馬			80,000		
パブリックリソース財団大阿闍梨			500,000		
令和6年度赤い羽根	250,000				
埼玉県社会福祉協議会	100,000				
		390,000		1,582,409	-1,192,409
4 その他収益					
雑収入	177	177	177	177	0
経常収益計(A)		2,614,177		3,661,106	-1,046,929
II 経常費用					
1 事業費					
食料購入費(困窮者用)	1,570,000		1,764,700		-194,700
生活用品等購入費(困窮者用)	0		0		0
水道光熱費	200,000		190,199		9,801
書籍費	0		0		0
リース料	110,000		108,648		1,352
保険料	30,000		34,000		-4,000
役務費	10,000		6,290		3,710
印刷費	80,000		126,564		-46,564
旅費交通費	150,000		172,681		-22,681
移転費用積立	100,000		0		100,000
修繕費	10,000		6,771		3,229
雑費	20,000		53,290		-33,290
事業費計		2,280,000		2,463,143	-183,143
2 管理費					
通信費	220,000		215,054		4,946
消耗品費	200,000		333,933		-133,933
諸会費	31,000		11,000		20,000
備品費	0		0		0
管理費計		451,000		559,987	-108,987
経常費用計(B)		2,731,000		3,023,130	-292,130
① 当期正味財産増減額(A-B)		▲116,823		637,976	
② 前期繰越正味財産額		1,189,703		551,727	0
次期繰越正味財産額(①+②)		1,072,880		1,189,703	0

第5号議案 役員の承認 (案)

2025年6月30日で現役員が任期満了になるため、2025年7月1日から2027年6月30日までの役員を選出したい。2025年5月10日の理事会において以下の候補が推薦されたので承認して頂きたい。

理事 田中満枝 上山武夫 加藤喜代江 神山光子 佐藤和人 千田昇一 山内修一
監事 佐々木あさ子 矢野彰子

3. 報告事項

感謝状の贈呈について

「感謝状贈呈の実施要綱」に従い、以下のとおり感謝状を贈呈致します。(順不同、敬称略)

入間ガス株式会社 入間ロータークラブ 入間南ロータークラブ 西武狭山グリーンビル
医療法人永仁会 入間ハート病院 岡本仍子 チャリテイワンダフル 株式会社 安川電機
YASKAWA みらいクラブ 社会福祉法人埼玉会 生活協同組合コープ みらい
埼玉トヨペット株式会社 一般社団法人日本ショールーム協会 社会福祉法人 入間市社会福祉協議会
コストホールセール ジャパン株式会社 株式会社ファミリーマート ファミマートドライブ事務局(14店舗)
狭山茶農家ささら屋 西武狭山グリーンビル 株式会社 三浦屋 埼玉営業所 田中畜産
ウェルシア薬局株式会社 (2店) いるま野農業協同組合 株式会社マルハン入間店
明治安田生命相互保険株式会社 入間支店 入間ブルーベリー園 セブンイレブン(16店舗)
有限会社宮源商店 株式会社生活クラブたまご 株式会社 啓和運輸
社会福祉法人 靖和会入間つつじの園 生活クラブ生活協同組合入間支部
社会福祉法人 創和 株式会社メモリード NPO 法人つばさの会
NPO 法人なごみテラシマ 入間ケーブルテレビ株式会社 読売新聞 入間市中央
総合仏事グループ いるまや
入間市立藤沢中学校 入間市立上藤沢中学校 入間市立向原中学校
入間市立西武中学校 入間市立東金子中学校